



## 5、詳細説明

1日目（6月 3日）くもり

前夜、米子駅前からバスに乗車。

博多＝伊万里経由で前回の終点JR久原駅  
～行き 10:22、久原駅～松浦駅（15.4km）、  
特徴のない海岸をただひたすら歩く。17:30  
松浦駅前の松浦シティホテル到着。



波瀬海岸



変電所跡 煉瓦が往時の栄華を物語る

2日目（6月 4日）晴れ

松浦の街はずれに白い時計台の洋館。北海道のイメージである。北原白秋の詩「この道」が頭に浮かんだ。  
白秋の時計台は札幌時計台が定説だが、白秋は九州で見たのかもしれない。昔から北前船などで北海道との交流があり、北海道の人が住みつき、柳川に住んだ白秋がそれを見たとしても不思議はない。



白い時計台の洋館。郷愁を誘う



松浦火力発電所のヤードに石炭が山積み（○印）



松浦市街を抜けると、松浦火力発電所の広大な敷地が続く。敷地内に石炭が山積みされている。石炭は使われていないと思っていたので、意外であった。道を挟んで、山側には太陽光発電所があり、旧技術と新技術の交代劇をみるような気がした。

発電所を過ぎると歩行者はなくなり、人道無視の国道204。叢が車道まで蔓延り、人道をふさいでいる。歩くのも命がけである。

突然叢が開けて、百笑市（農家直売場）「よってって」が現れ、二人のお姫様が艶然と笑みを浮かべている。素通りできないので立ち寄り、アンズを一袋買い、食べながらお話。

この地は、朝鮮へ出兵する夫（つま）を呼び戻そうと、山の上から領巾（ひれ）を振ったとされる佐用比売（さよひめ）伝説の地で、近くに領巾振山がある。



二人の佐用比売（さよひめ）  
佐野三枝子さんと立石紀子さん

遠つ人松浦佐用比売夫（つま）恋に、

領巾（ひれ）振りしより負へる山の名 大伴旅人

歌の情緒に似あわない殺風景な景色のなかに可憐な季節の花や、所有者不在の枇杷がたわわに実っていて、足を止め、一房頂く。昼食代わりに枇杷を食べながら歩く。



14:50 たびら平戸口駅着。いまは沖縄の結レール赤嶺駅が最西端であるが、在来の鉄道駅としてはいまもここが日本最西端の駅である。平戸観光の駅で駅前に旅館もあるが、シーズンオフでほとんど人影がない。駅前の店の酒パンが懐かしく、一つ買って遅い昼食をすませ、次の合流地点田平天主堂に向かう。



日本最西端の駅 たびら平戸口駅

まもなく平戸大橋が見えてくる。大橋入口付近に、天主堂へ向かう近道があるのだが、細い未舗装の道で、高台に向かってかなりの急登。諦めて正規の県道 221 号をゆっくり歩く。アップダウンがあり、わきをかすめて行くバスを恨めしく見ながら、とにかく歩く。

16:30 田平天主堂着。和子と合流。教会の建物やマリア像を見学する。(友松)



平戸大橋遠望



田平天主堂と正面に立つ聖母マリア像

報告 2 (江迎鹿町駅～田平天主堂)

11:45 江迎鹿町駅出発。夜行バスと鉄道の乗継で疲労感あり。末橋駅前を左折し江迎湾沿いに歩く。深月免の集落入口の鎌倉神社わきから山道に入り、ジグザグに登る。結構急坂で、気管支に障害のある身に辛い。13:30 県道 221 号に出る。その後もアップダウンがあり、予定より 30 分遅れて 14:50 田平天主堂に到着。友松は遅れそうなので、一人で教会内を見学。静謐とステンドグラスを通った光の華やかさが調和した美しい講堂である。

16:30 友松到着。(和子)

報告 3 (田平天主堂＝江迎鹿町)

17:15 江迎行バスに乗車。17:50 江迎到着。江迎鹿町駅構内を通過して、18:00 ホテル AZ 着。(友松)

3日目 (6月 5日) くもり／晴れ

6:35 ホテル前で友松と別れ、歩行開始。歌の浦まで山路。7:30 舟の村のバス停。海から離れた山中に「船の村」の地名。お名前番組ではないが、由緒がありそう。この後、舟を造っている作業所や、魚加工工場もあって、どうやら海関係の会社が海岸から離れた山中に疎開しているらしい点。リアス式海岸特有の津波からの避難であろう。11:20 神崎入口バス停着。11:25 国石行バスに乗車。11:53 国石別道着。小浦駅まで 1 キロを歩き、12:29 発佐世保行きに乗車。12:40 相浦駅着。(和子)



山中に舟の村バス停

報告 2 (江迎鹿町駅＝神崎入口～相浦)

リアス式海岸では隣り街まで行く道路は海岸から上がった高台にある。小学生も学校へ行くのに山越えをしなければならない。この時間帯、ちょうど登校時で、小学生が上級生に引率されて、隊列を組んで歩いてくる。

裕福な町ならスクールバスがでるのだろうが、寒漁村ではその費用を捻出することは難しいだろう。沖縄の北国小学校で、7人の生徒のために、マイクロバスが使われていたのを思い出す。



楠栖小学校と付近の通学路からの風景

楠泊りの入江の奥の竹田川の付け根に古い石橋がかかっている。西川内橋である。大正9年（1920年）の建設。ほぼ100年前のものである。当時はここが幹線道路で人の往来があったらしい。橋のすぐ先に大平炭鉱の石の道標。県外から働きにきた鉱夫がここで一休みしたのではなかろうか。昔日の感がある。



西川内橋と大平炭鉱の標識。護岸の石積みも当時のもの。

12:00 相浦駅着。駅前が漁港。大きな漁船もあり、かなりの賑わい。ここでタクシーに乗る。中継点のローソンまで走ってもらうが、地図への書き込みを間違えたらしく、道の左側にあり、少し先の右側にもあるとのことで、更に走ってもらう。様子が違うような気がしたが、下車。予定した所から1.2キロ先の鹿子前入口まで来てしまった。和子と電話。少し距離を延ばしてもらうことにする。店内の座席で30分休み、歩行再開。今夜の宿を横目に、九十九島シーリゾートまで歩き、和子を待つ。（友松）



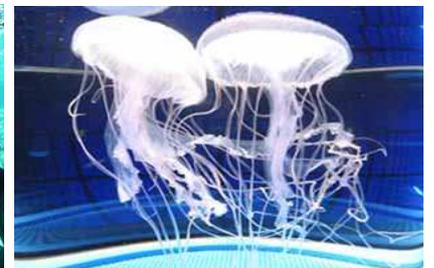
相浦港の賑わい

### 報告3（相浦駅～九十九島シーリゾート）

12:40 相浦出発。友松からの連絡で、更に1.2キロ先の鹿子前入口に目的地変更するが、残りあと1.3キロしかないなので、そのまま歩き続け、14:20 シーリゾート着。友松と合流。（和子）

### 報告4（九十九島シーリゾート水族館・遊覧船）

遊覧船出向が15:00で少し時間があるので、水族館を観ることにする。



キララ水族館い

その後、パールクイン号で九十九島を巡る。1時間ほどのクルージングだが、世界の1級景観に認定された島の景観は感動的である。（友松）



パールクイン号で九十九島遊覧



この狭い海峡を抜けて行く

## 報告 5(九十九島シーリゾート～佐世保)

16:00 シーリゾートを出発。造船所（佐世保重工業）の敷地の縁をたどるように佐世保駅をめざす。金網ごしに造船場のなかが見れる。船台が幾つかあり、その一つで巨大タンカーを建造中。働く人が蟻よりも小さくみえる。時間があつたら見学しようと思っていたが、これだけ大きいと、なかに入らない方が、全体を見渡せる。米軍基地や軍港などの道路案内が続くなか、17:50 佐世保駅前のトヨタレンタリース佐世保店到着。



SSK 第4ドック

軽乗用車を借り出し、先刻通ってきた、九十九島シーサイドテラスホテルに戻りチェックイン。（友松）

## 4日目（6月 6日）

平戸島観光(九十九島サイドテラス＝平戸島＝伊万里)

8:00 シーサイドテラス出発。9:10 平戸島着。

平戸は旧くは神功皇后の三韓出兵、東インド会社のオランダ商館をなど、外国との交易の拠点として栄えた場所であるが、ここを観光地に選ぶことに躊躇があつた。

ここは日本に最初にキリスト教が伝えられた場所で、後に国策でキリスト教は禁じられ、明治までこの地に弾圧が続いたことである。

迫害は筆舌に表せない凄惨なものだったと伝えられ、平戸の人たちには今もその記憶が残っているはずで、そのような場所を観光することに躊躇があつた。しかし、自国で起こったことから目を背けてはならないと思ひなおし、歩行の最期の日を平戸訪問にあてることにした。



平戸観光マップ

### 大バエ灯台

生月島の最北端に位置し、80m 切り立つ大バエ断崖の上にたつ無人灯台。この灯台には展望所が設置されており、生月島の全貌と、壱岐、対馬などの島々が望まれる。



大バエ岬の灯台

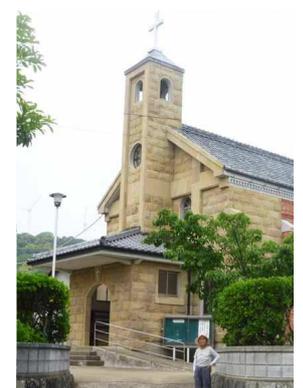


大バエ灯台

### 山田教会

生月島は隠切支丹の島と言われ、殉教者をたくさん出しており、訪ねることはできなかったが、近くには殉教の歴史を偲ぶ聖地が集中している。立地は高台にあるが、山田免の密集した集落に包まれるように立っており、カトリック教会が人家を離れて立ち、聖者や美しい聖母マリア像に囲まれているのとは、明らかに違う。

下から遥拝するだけのつもりであったが、百笑市の立石さんではなかったかと思うが、山田教会に是非行って欲しいという言葉に、切実なものを感じ、大バエ岬の帰途に立ち寄った。集落が入り組んで、何度も迷いながらたどり着いた。教会の質素な佇まいを見ただけでも、カトリックとの違いがわかる。



山田教会

## 切支丹資料館

ザビエルによるキリスト教平戸布教以降、根獅子は住民すべてが信者になったと伝えられる。しかし激しい弾圧の時代を迎え、人々は信仰を守るために、仏教や神道を隠れ蓑として、納戸に深くしまわれた聖画などを中心とする礼拝を行っていた。明治以降カトリック信者に戻る人々とこれまでの信仰を守る人々にわかれ、後者がかくれキリシタンと称される。



切支丹資料館

多くの殉教者を出した根獅子の浜や、その殉教者たちを祀るおろくにん様などの聖地に取り囲まれるかたちで資料館が建てられ、納戸神や紙の十字架マブリ（お守り）など密やかに守り抜かれた信仰の歴史が公にされた。

### おろくにん様(信者伝承)

ある夫婦と女の子三姉妹の前に、一人の男が現れた。家族はその働きぶりに感心、長女の婿に迎えた。

子をなし、もう大丈夫と思って一家がキリシタンと告白した翌日に男は姿を消し、一家は捕らえられ、お腹の子を含め6人（おろくにん様）が根獅子の浜昇天石で処刑された。遺体は海に捨てられたが、村人達は遺体を拾いこの森に手厚く埋葬、一帯を聖地として敬った。(資料館HP)



おろくにん様への道(資料館の裏)

## 紐差カトリック教会

大規模な天主堂で、旧浦上天主堂が原爆によって倒壊した後は日本最大の天主堂といわれる。

外部はロマネスク様式で、内部にはアーチと美しいステンドグラスがはめ込まれ、敷地にマリア像が幾つか安置され、教会の内、外で華やかさが演出されている。



紐差カトリック教会

## 宝亀カトリック教会

1898年(明治31)の建立。多くの特徴をもつ聖堂で、あまり大きな教会ではないが、平戸を代表する美しい教会である。

いままで見てきたカトリック教会は、建物が美しいだけでなく、聖者や聖母マリア像を置き、目に見える形でキリスト教をPRしているのに対して、キリスト教徒である



宝亀カトリック教会

ることを隠し続けたかくれキリシタンとの間にはかなりの距離があることが実感できた。どちらが正しい、どちらが間違っているということではなく、そうやっていった歴史に思いが行く。

## 松浦史料博物館

平戸をはじめ壱岐をふくむ長崎県北を治めた平戸藩主松浦家に伝来の資料を保存・公開する長崎県で最も歴

史を有する博物館である。建物は松浦家の私邸「鶴ヶ峯邸」を利用。

興味を惹いたのは、切支丹弾圧の様子を伝える絵図で、或る意味、加害者の立場にあった松浦家の、負の遺産とも言え弾圧の記録を公開していることに、現在の松浦家の良識が偲ばれ、救いを感じた。



藩主私邸であった松浦史料博物館

## 6、費用概

### 2人合計

交通費	41,540 円
レンタカー	15,177 円
宿泊費	45,812 円
飲食費 (昼食等)	3,556 円
雑費	1,000 円
合計	111,873 円

### 1人あたり合計

合計	55,936 円
----	----------

以上